

「コミュニティ環境マップ」の住民参加型作成手法、およびその支援ツールの開発

ー地区レベルの環境共生型空間計画の策定支援をめざしてー

代表 田中 貴宏（神戸大学大学院自然科学研究科 COE 研究員）

委員 島田 直明（岩手県立大学総合政策学部 助手）

〔研究報告要旨〕

近年、まちづくりへの住民参加の重要性が認識されており、地区計画等、コミュニティレベルの空間計画においても、地域住民の方々の積極的な関与がみられるようになりつつある。また、自然環境共生の重要性が認識されつつある昨今、このようなコミュニティレベルの空間計画においても地域環境に対する配慮は重要であると考えられる。このような地区レベルの環境共生型空間計画を実現するにあたり、その計画主体となるべき人々（地域の住民の方など）が地域の環境を俯瞰的に認識することは非常に有効であり、またその「認識」は実体験に基づくものであることが望ましい。そして、このような「実体験に基づく地域環境に対する俯瞰的な認識」を身につけるためには共同でのマップづくりは有効であると考えられる。

そこで、本研究では「コミュニティ環境マップ（生きものや景観といった環境要素を地図化したもの）」を住民参加のもとで作成する手法を確立すること、そしてその支援のためのツール（簡易 GIS）を開発することを目的とした。具体的には、以下の2つのプロジェクトの実践を通して研究を進めた、いわゆる実践研究である。

（１）「第１回コミュニティ環境マッピング～生きもの地図編～」

（２）「第２回コミュニティ環境マッピング～景観マップ編～」

これら2つの実践を通して、「コミュニティ環境マップの作成は、環境デザインに関する新たな『知恵』を参加者みんなで見出すために有効である」ということを確認した。今後、自然環境と共生したまちづくりを目指す際、住民とともに進めるコミュニティ環境マッピングは有効であると考えられる。また、今回提案・実践したマップ作成手法は概ね有効に機能したと言える。さらに、コミュニティ環境マップの作成支援のためのツール（簡易 GIS）も実際にイベントの中で活用したが、このツールについても概ね高評価であった。しかし、課題も複数見つかり、今後この点を検討材料としたい。